

「兼好法師ってどんな人！？～『徒然草』から作者の人物像を探る～」

目標 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけたり他の意見を参考にしたりしながら、自分の考えをもつことができる。

| 時 | 学習活動の概要 | 指 導上の留意点 |
|---|---|---|
| ① | <p>(ねらい) 序段・第52段から兼好法師の見方や考え方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この単元の目標や流れについて説明を聞く。 ・教科書にある序段と第52段を読んで、そこから考えられる兼好法師の人物像について、自分の考えを持つ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">○仁和寺の法師がおかした失敗とは？</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> たちどまり① 「兼好さんってどんな人？」 </div> | <p>指 導上の留意点</p> <p>○K先生とのエピソードから、作者について語りあうことの楽しさについて紹介する。</p> <p>○最初に音読CDを聞かせ、正確な読みを押しさえさせる。</p> <p>○序段については現代語訳を読み、内容を把握させる。</p> <p>○第52段については、まず行間の部分訳から自分なりにどのような内容か考えた後、全体で確認を行う。</p> <p>○ノートを回収し、多かった意見をまとめ、国語科通信にする。</p> |
| ② | <p>(ねらい) 第19段・第45段から兼好法師の見方や考え方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科通信で前回のたちどまりにどのような意見があったか確認する。 <p>〈多かった意見の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまな人 ・退屈な人 ・やさしい人 ・おっちょこちょいな人 ・性格の良くない人 ・ユニークな人 ・文を書くのが上手な人 ・観察力のある人 ・ユーモアのある人 <ul style="list-style-type: none"> ・資料集にある第19段「折節の移り変はるこそ」と第45段「公世の二位のせうとに」を読み、内容を | <p>指 導上の留意点</p> <p>○教師の範読により、読み方を確認した後、まずは各自で音読練習を行う。次に二色読</p> |

ポイント1
池井戸潤っておもしろい!

ポイント2
あれっ、何か変!?

| | | |
|---|--|--|
| | <p>把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二色読みについての説明を聞き、実際に隣の人とペアになって読んでみる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>たちどまり② 「兼好さんってどんな人？」</p> </div> | <p>みについて説明し、実際にペアになって二色読みを行う。</p> <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p>ポイント3 どこまでだっけ!?</p> </div> |
| ③ | <p>(ねらい)ビギナーズクラシックス「徒然草」から、兼好法師のものの見方や考え方が分かりそうな段を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目次を見て、タイトルから読んでみたいと思う段を5つ選ぶ。 ・現代語訳を中心に選んだ段を読み、記録カードにどんな人物だと思ったか、また、その理由を記録する。 ・先に選んだ5つについて記録ができれば、他のところを読み、同じように記録カードに記録する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ビギナーズクラシックスを配布する前に、目次のみを印刷したプリントを配布する。 <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p>ポイント4 まずは目次から</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○記録カードを1人に5枚ずつ配布する。 ○5つの段が決まった人からビギナーズクラシックスを受け取り、読み始める。 ○必要な生徒に必要な数だけ記録用紙を渡す。 <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p>ポイント5 証拠はどこ!?</p> </div> |
| ④ | <p>(ねらい)自分が発表しようと思う段を決め、発表の準備を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録したカードの中から、兼好さんの人物像が一番よく分かる段を選び、そう思った根拠を確認したり、古文の音読練習をしたりして、意見交換会に備える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○選んだ段数を名表に記入させ、それをもとに重なりがないようにグループを編成する。 |

| | | |
|---|--|---|
| | | |
| ⑤ | <p>(ねらい) 友だちの意見を参考にしながら、兼好法師の人物像について自分なりの考えをまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼好法師の人物像について、どのように友だちに伝えたらよいか考える。 ・代表者の発表を聞く。 ・グループに分かれて、自分の考える兼好法師の人物像について意見交換を行う。 ・友達の発表を参考にして、兼好法師の人物像について自分の考えをまとめる。 | <div data-bbox="970 353 1302 551"> <p>ポイント6 モデルを示す</p> </div> <div data-bbox="970 645 1302 842"> <p>ポイント7 特別のグループで</p> </div> |

～ポイント解説～

POINT 1 「池井戸潤っておもしろい！」 → K先生のとエピソードから筆者考察につなげる。

導入となる第1時では、K先生と小説家池井戸潤について語りあったエピソードから、作者について語りあうことの楽しさを紹介した。実際に小説を読んだ生徒も数名おり、また、読んでなくてもドラマを見たという生徒も多く、作者について考えることの興味づけになった。

POINT 2 「あれ、何か変!？」 → 勘違い意見もあえて採用し、疑問をもたせる。

第1時の「立ち止まり」(振り返り)より、いくつかの意見を選んで国語科通信に載せて配布した。比較的に数多かった意見を中心に載せているが、中には「おっちょこっちょいな人」といったものもある。これは筆者である兼好法師について書いたものではなく、第52段に登場する仁和寺の法師について書いたものと思われる。勘違いをしている意見ではあるが、これがあることで、「何!？」「どうして?」と友だちの意見について立ち止まって考えるきっかけとなると思い、あえてそのまま載せている。

- ひまな人
- 退屈な人
- おっちょこっちょいな人
- 性格の良くな人
- ユニークな人
- 文を書くのが上手な人
- 観察力のある人
- やさしい人
- ユーモアのある人

国語科通信 11 (平成二十九年十一月二十日発行)
立ち止まり? 「兼好さんってどんな人?」①
☆突然冒険。第五十二段を読んで、作者の兼好さんがどんな人だと感じか聞いてみました。その結果、次のような意見が多く見られました。

POINT 3 「どこまでだっけ？」 → 二色読みは範囲を合わせるのが案外難しい。

ここでいう「二色読み」とは、次のように古文と現代語訳を二人で交互に読む読み方を指している。

A……「つれづれなるままに」

B……「今日はこれといった用事もない。」

A……「日暮らし硯に向かいて、心にうつりゆく由なしごとを」

B……「のんびりとくつろいで、一日中机に向かって、心をよぎる気まぐれなことを」

A……「そこはかたなく書き付くれば」

B……「なんのあてもなく書きつけてみる。すると」

A……「あやうこそもの狂おしけれ。」

B……「何だか不思議の世界に引き込まれていくような気分になる。」

どこで区切るかは古文担当者に決める権利がある。読まれた古文に相当する現代語訳を読まなければならないので、現代語訳担当者は相手を読んでいる間もそれが現代語訳のどこに当たるのかを考えながら聞いていなければならない。単に音読するよりも、意味を想像しながら読むようになる。

POINT 4 「まずは目次から」 → 目次からターゲットを絞る。

ビギナーズクラシックスを1冊渡すと、多くの生徒は「序段」から順に読もうとする。自由読書ならそれでも良いが、今回は時間に限りがあるため、始めに目次だけを載せたプリントを配布した。タイトルから読みたいと感じるものをまず5つ選び、決まった人から読み始めることができるようにした。目次から内容を想像し、読む場所を決めるという作業はこれからも読書生活を進める上でも必要なスキルである。

POINT 5 「証拠はどこ？」 → どの表現に注目したかハッキリさせる。

記録カードには、兼好法師をどのような人物だと思ったか、そして そう判断した理由を書くように指示したところ、初めは次のカード①のようなものが多かった。確かに理由が書かれているが、文章の中のどの表現からそういう人物だと判断したのか、表現に注目してもらいたいと思い、証拠となる表現を具体的に挙げるよう追加の指示を行った。すると、カード②のようなものが増えてきた。引用部分は短いですが、第121段の傍線部分に注目していることが分かる。このように、「それはどこから？」「どの表現からそう思うの？」という問いかけ(はたらきかけ)を繰り返すことで、生徒たちは自分の判断の根拠を具体的な表現の中に探すようになっていった。当初は「何となく」や「全体的に」という答えが多かったが、次第にさっと根拠を示す生徒が増えてきた。

〈カード①〉

第(一)(二)段より

◆「ペット飼育批判―養ひ飼ふ物には無益な殺生を嫌う人」

人間の社会生活に必要なもの以外の生き物(鳥など)を飼育することを否定しているから

〈カード②〉

第(一)(一)段より

◆「ペット飼育批判―養ひ飼ふ物には動物思いのやましい人」

(くまらずありえない。と書いてあるから)

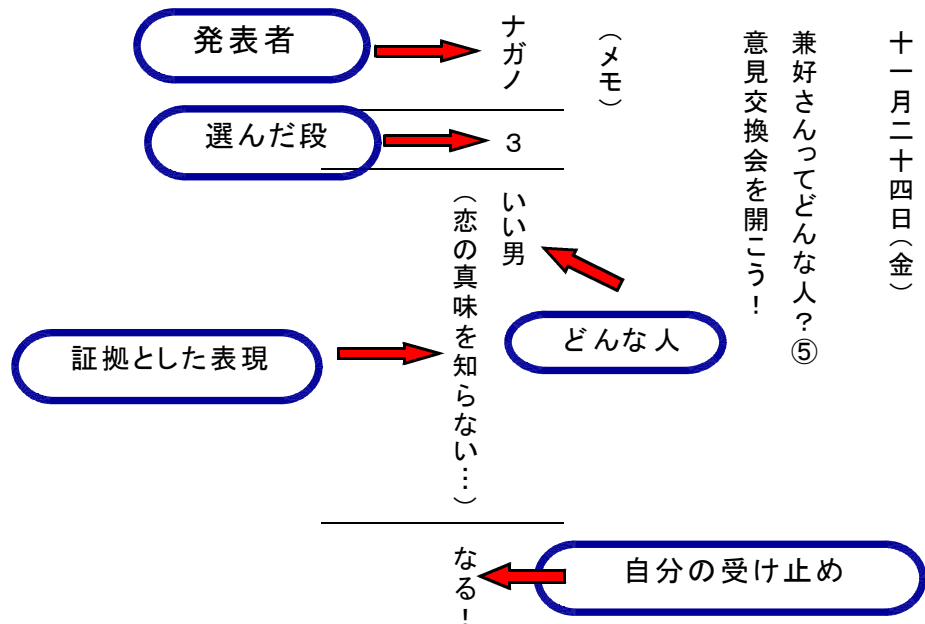
生徒番号()

〈第121段より〉

飼う段になると、走る獣は檻に閉じこめられ錠をかけられ、また、飛ぶ鳥は翅を切られ籠に入れられる。鳥が空を飛び回りたいと願ひ、獣が野山を駆けめぐりたいと思う悲しみは、いつまでも尽きる時がない。そうした鳥・獣の苦しみを、我が身に引き受けて耐えがたく思うようならば、情愛の深い人の場合、それを飼って楽しむだろうか。まずありえない。これらから生きる喜びを奪って置いてそれを眺めて楽しむのは、古代

POINT 6 「モデルを示す」 → どのレベルのメモを残すか、モデルで使って共通認識を。

5時間目の意見交換会で友だちの意見を聞き、それをもとに自分の意見を再構築することとした。そのため聞いた内容をメモとして残す必要があるが、どのくらいの内容を記録するかということ、始めに代表者に発表してもらいそれをモデルとして示すことで共通理解を図った。



友だちの発言内容を記録するとともに、それを聞いてどう思ったか、その瞬間の思いを残しておくが良いが、文章で表すと時間がかかるため、オリジナルの印を作って簡単に表すように指示した。

- (例) なる! → なるほど、そういうことか。
 ある2 → そういうことってあるある。

POINT 7 「発表は特別のグループで」 → グループの中にこの段を選んだのは私だけ

意見交換会は日常の生活班ではなく、各自が選んだ段をもとに特別に組み替えたグループで行った。グループの中には同じ段を選んだ人がいないため、その段の内容をしっかりと伝えなければと思い、表現をよりよく読み、言葉を吟味して伝えようとしていた。

成果と課題：教科構想に基づいて本実践を振り返る

国語科では、子どもたちに備えさせたい資質・能力を育むために、「思考の必然性を実感させる単元構成の工夫」「学び合いにおける教師のはたらきかけの工夫」「思考の深まりを生み出すふりかえりの工夫」を手立てとしてあげている。

「思考の必然性を実感させる単元構成の工夫」については、学習対象をビギナーズクラシックス1冊の中から自分で選ぶこと、また、選んだ段が重ならないように組み直したグループで意見交換を行うことの二点を行った。決められたものではなく、数ある対象の中から自分で読み、選んだものであるからこそ、友だちにもしっかりと伝えたいと思うはずである。また、その段を担当するのは自分だけであるという設定により、作品の表現をきちんと読み取る必然性は高まったと思われる。

「学び合いにおける教師のはたらきかけの工夫」としては、自分の意見を組み立てる根拠をはっきりさせるため、読み取り作業中の生徒に対して、「どの表現からそう考えたのか」という問いかけを繰り返し行い、記録カードにも注目した表現を記入するよう指示した。これらのことから、作品中の表現を根拠にして自分の意見を述べるという流れが身についていったようである。

「思考の深まりを生み出すふりかえりの工夫」についてであるが、普段は時間ごとにテーマを変えて振り返りを書くことが多いが、今単元ではその時間の学習から考えた兼好法師像を書くように設定した。第1時に書かれたものの中からいくつかを通信にして第2時で示した。これにより、自分の考えなかったような受け止めを友だちがしていることを知り、

「なぜだろう」「どうしてそんなふうに (生徒Aのふりかえり)

(生徒Bふりかえり)

言えるのかな」という思いをもった生徒は多かったろう。この疑問が次に読み進めるときのエネルギーになった。次のようなふりかえりがある。生徒Aは段ごとに異なる兼好法人物像に戸惑いを感じていたことが分かる。次の単元を読み進めれば進めるほど、違う人物像が見えてきてどれが本当の兼好法師なのか分からなくなっている。また、生徒Bは意見交換会で聞いた友だちの意見から、それまでもっていた自分の考えを新たなものに更新していることが読み取れる。

| | |
|---------------------|---|
| <p>「この単元をふりかえり」</p> | <p>この単元をふりかえり。私はまます。兼好さんかどんがわかんなさなりす。なぜなら、場面によし、ほろろかう様子が言われているからです。兼好さんは感情が豊か。なんというのか、一番わかるか付と思ましく。</p> |
| <p>「この単元をふりかえり」</p> | <p>この単元をふりかえり。私はまます。兼好さんかどんがわかんなさなりす。なぜなら、場面によし、ほろろかう様子が言われているからです。兼好さんは感情が豊か。なんというのか、一番わかるか付と思ましく。</p> |

